



全私保連 保育運動 新しい時代は子どもから

いつもの保育の実践と 写真で伝える 私たちが伝えたい 7つのメッセージ

私たちが伝えたい7つのメッセージ

- 1 子どもの思いを受け止めましょう
- 2 子どもの「遊び」を守りましょう
- 3 子ども自身に乗り越える力を育てましょう
- 4 子どもが「自分でやりたい」を大切にしましょう
- 5 子ども同士の関わりが大切です
- 6 みんなで食べると美味しいんです
- 7 子どもは自然が大好きです



7 子どもは自然が大好きです

……「よく食べて動いて寝る子」に

子どもが自然に触れることは多くの意味を持ちます。

子どもは、虫や花など小さなものから大きな地形や星などにも不思議を感じて、興味を持ちます。さらに自然の中で活動することは、体力を培い、運動能力や危険を予知する力になります。また四季を通じた気候の変化や、さまざまな生物と触れ合うことで五感を研ぎ澄まします。子どもは自然が大好きです。

赤ちゃんが泣いている時、「抱いて心音を聞かせる」「立って抱いてゆらゆらする」「外気に触れる」、これは保育の基本動作です。



ヒトも自然の一部であり、赤ちゃんは大人に抱っこしてもらおうことで、自然に包まれる快感を得ます。他の動物と違い、生理的早産で生まれ、1歳になるまで歩けない赤ちゃんの移動の欲求も満たしています。

近年は、暑すぎたり、寒すぎたりすることもあります。時間や衣服を調節して、1日1回は外気に触れましょう。雨の日も小雨なら、カバーを付けて出かけましょう。赤ちゃんは、カバーが曇ったり、カバーに雨粒が滴る様子も見逃しません。自分で歩けない分、大人に負けない観察力があります。

歩けるようになると、歩くことが遊びになります。適度な斜面を見つけてヨイショ、ヨイショと上ったり、トトト……と走って降りたり、ちよつとだけ上を目指す子どもたち。

自分の実力を知り、できないことは手助けを求めるときも、自然から教えてもらう大事なことです。

歩いたり走ったりが上手になると、3次元の世界へ。固定遊具や築山など、高いところを目指します。雲を見たり、ヘリコプターに手を振ったり、そして遠くも見渡せるようになります。室内より自由で、たくさん遊びや素材や仲間が待っていて、しかも遊び放題のパラダイスです。

「お外行くよ」「よっしゃ」。子どもたちは今日も、自然の中で身体を動かす楽しさを感じます。

保育施設では、その立地によって、自然を保育に取り入れています。川があれば川、海があれば海、山があれば山、というふうには。その手助けをする環境管理士という資格を取得する保育者もいます。

室内も自然がいっぱい。お日様が差し込み、風が通り、昆虫がゴソゴソしたり、りーんりーんと鳴いたりします。散歩で摘んできた草花を飾ったり、図鑑で名前を調べたり、ドングリで製作を楽しんだり……。インドア派の子どもも大満足の環境づくりを心がけています。

太陽の光や外気は体内時計を整え、生活のリズムをつくります。自然は「よく食べて動いて寝る子」を育てます。